

# 自然遊学館 だより



## ツナミガイ

アメフラシ科。体は円錐形で、後端は平らなお皿状。体表面に樹枝状の突起が多数あるが、表皮が肥厚して体は固い。体内にある殻が波頭の立つような形なので、立浪貝との名がある。二色の浜での記録は少ないが、昨年の潜水調査で多く生息するのが確認された。

二色の浜地先，2020年10月28日採集

## 2021 WINTER

# No.98



2021.2.10 発行 貝塚市立自然遊学館

## 目次

### \*ネイチャーレポート

近木川下流で記録されたイセゴイ  
…… 森 彩華・高田雅彦・山田浩二…1

近木川で見つかった大阪湾初記録の  
トゲアシヒライソガニモドキ  
…… 和田太一・山田浩二… 2

せんごくの杜昆虫調査  
楽しい昆虫調査イベントへの試行錯誤  
…… 澤田智子 …4

### \*行事レポート

海藻おしば作り …… 澤田智子 …6  
アンモナイトの断面標本を作ろう！  
…… 山田浩二 …7

北海道留萌産アンモナイトについて…高田雅彦…8

### \*泉州生きもの情報

ヒトデに寄生する貝 …… 児嶋恭平 …9  
クリタケ …… 岩崎 拓 …10

### \*館長コーナー

自然遊学館からのお知らせ …… 高橋寛幸… 11

### \*調査速報

貝塚市二色の浜と近木川周辺の鳥調査 19  
…… 鈴木勝也… 13

\*寄贈標本 …… 14

\*スタッフ日誌 …… 16

\*お知らせ …… 17

## ネイチャーレポート

### 近木川下流で記録されたイセゴイ

イセゴイ *Megalops cyprinoides* はカライワシ目イセゴイ科の暖海沿岸性の魚で、国内での分布は日本海側では新潟県以南、太平洋側では青森県八戸以南とされます（中坊、2013）。国外ではインド洋から西部太平洋の熱帯・亜熱帯域に幅広く分布し、インドパシフィック・ターポンとも呼ばれ成魚は最大で1.5mになります（藤田、2019）。仔魚は葉形仔魚（レプトケファルス）の発育段階を持ち、海の表層を海流によって運ばれ、ときに汽水域や淡水域まで侵入します（中坊、2018）。

本誌前号(97号)で簡単に触れましたが、2020年9月19日に近木川下流で実施されたアユ調べの観察会において、本種の仔魚1個体が採集されました（図1）。サポートスタッフの河添純子さんの採集したウナギの幼魚が入った容器のなかに、見慣れぬ透明な柳葉状の小さな魚が泳いでいるのが見つかり、館に持ち帰って調べてみるとイセゴイの仔魚ということがわかった次第です。個体は全長24mm、総筋節数69、背鰭前筋節数47、肛門前筋節数50、腹鰭前筋節数、背鰭条数15、臀鰭条数24、尾鰭条数19であり、同定は望岡（2014）に従いました。なお、標本はエタノール液浸にして当館にて登録、収蔵しました（KCMN-P593）。

本種の記録は、貝塚市内では初めてとなり、大阪府内での記録は2011年度に大阪市の平野川（第二寝屋川支流）（光岡、2015）、2013年に堺市の石津川（脇村ほか、2017）、

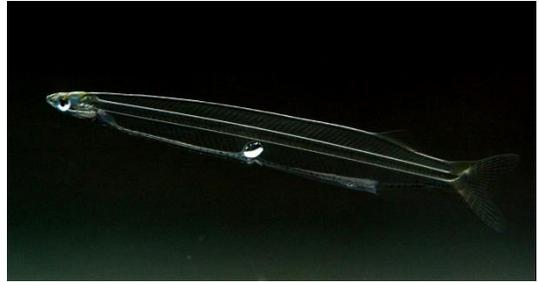


図1. イセゴイの葉形仔魚

また2017年に阪南市地先（花崎ほか、2020）があります。

#### 謝辞

イセゴイに関する文献をお送りいただいた大阪府立大学 高等教育推進機構の加藤幹男教授、同定についてご教示いただいた和歌山県立自然博物館の掛 善継学芸員にお礼申し上げます。

#### 引用文献

- 藤田朝彦(2019)イセゴイ. *in* 細谷和海編・監修「増補改訂 日本の淡水魚」、p.28、山と溪谷社。
- 花崎勝司・松岡 悠・三宅壽一・柏尾 翔(2020)大阪府阪南市地先海岸産魚類標本目録. *南紀生物*, 62(2):189-195.
- 光岡和彦(2015)魚類の生息状況からみた大阪市内河川の水環境の変化に関する考察. *ちんちょう* (NPO水澄), 7:24-36.
- 望岡典隆(2014)カライワシ目 *in* 沖山宗雄編.「日本産稚魚図鑑 第二版」、p.4、東海大学出版会。
- 中坊徹次(2013)「日本産魚類検索 全種の同定 第三版」、東海大学出版会。
- 中坊徹次(2018)「小学館の図鑑Z 日本魚類館」、小学館。
- 脇村 圭・太田勝之・竹門康弘・加藤幹男(2017)大阪府堺市の石津川において採集したイセゴイ *Megalops cyprinoides* 変態期仔魚の記録. *陸水生物学報*, 32:1-4.

(森 彩華・高田 雅彦・山田 浩二)

## 近木川で見つかった大阪湾初記録の トゲアシヒライソガニモドキ

2020年9月30日に貝塚市近木川の干潟再生地（汽水ワンド）の底生生物調査を行っている際に、モクズガニ科のトゲアシヒライソガニモドキ *Parapyxidognathus deianira* (De Man, 1888)が見つかりました。大阪湾ではこれまで本種の記録はなく、今回の発見が大阪府および大阪湾初記録になります。

甲羅は丸みを帯びたやや横長の四角形で、前側縁には眼後歯を含めた3歯があり、干潟でよく見かけるケフサイソガニ類に似ていますが、雌雄ともハサミ脚の掌部に毛の房や黒い目立つ斑点がありません（図1）。そして和名の「トゲアシ」の通り、各歩脚の長節後縁に明瞭な棘状突起が1～数個あることが特徴です（図2）。さらに各歩脚には羽状毛が多数生えており、水槽に入れると歩脚を素早く動かして水中を泳ぐ行動も見られます。また、今回採集された最大サイズである甲幅14mmの雌を含め、大型の雌はすべて抱卵していました（図3）。

見つかった場所は干潟再生地と近木川本流を仕切るブロック護岸で、潮間帯付近に付着したマガキ *Crassostrea gigas* の殻の隙間や死殻の中に本種は潜っていました。本流に面した側では10個体を超える多数の個体が見つかり、干潟再生地に面した側でも少数が見つかりました。採集個体のうち、雄3個体、雌4個体を貝塚市立自然遊学館の所蔵標本（KCMN-Cr）として保管しました。

さらに同年10月14日には干潟再生地の上流および下流の近木川右岸の護岸に付着したマガキおよびオハグログキ属の一種 *Saccostrea* sp. の隙間からも見つかりました。同所的にはウネナシトマヤガイ *Neotrapezium liratum*・スジエビモドキ *Palaemon serrifer*・ケフサイソガニ *Hemigrapsus penicillatus*・タカノケフサイソガニ *H. takanoi*・台湾ヒライソモドキ *Ptychognathus ishii*・ヒナハゼ *Redigobius bikolanus*・サツキハゼ *Parioglossus dotui*などが見つかりました。



図1. 雄 背面（甲幅11 mm. 10月14日採集）



図2. 歩脚の長節後縁に1～数本の棘状突起(矢印)を備える。



図3. 雌 抱卵個体(甲幅14mm. 10月14日採集)

本種の棲息環境については、河川感潮域上流部から河口の干潟まで広く出現し、水中の転石間や植生、リター（水中に沈んだ落ち葉や枯れ枝などの植物遺体）、河口や干潟の石の下、カキ殻中など様々な物の下や隙間から採集された報告があります（野元ほか、1999；成瀬、2012；吉崎、2018；締次・木村、2019；乾ほか、2019）。伊藤・勝呂（2018）は神奈川県の大賀茂川で、護岸と鉄筋に垂直方向に付着したカキ礁の隙間に本種が高密度に棲息していることを報告しており、筆者の和田も宮崎県延岡市熊野江川で河口部の干潮時に干出する岩礁に付着したマガキおよびオハグロガキ属のカキ群集の隙間で本種を多数確認しています。

今回の近木川も大賀茂川や熊野江川に類似した河口部のカキ群集の隙間で多数の個体を確認しました。このことから本種の主な棲息環境は河口部のカキ群集の隙間ではないかと考えています。今後も大阪湾の他の河川の河口部でカキ類がよく付着しているような場所を調べると本種が見つかる可能性があるでしょう。

本種は国内では千葉県以南の本州太平

洋岸から九州西岸および琉球列島で記録があり（成瀬、2012；吉崎、2018）、黒潮など暖流の影響をよく受ける地域に分布している種と考えられます。近隣の産地としては和歌山県の紀ノ川での記録が知られており（野元ほか、1999）、南紀地方では割と普通に棲息しているようです。

近木川の干潟再生地の底生生物調査は2012年度から継続して行っており、これまでもブロック護岸に付着したカキ類を剥がすなどして隙間に潜む生物を調べていましたが本種は見つかっていませんでした（山田編、2019）。本種と同じく千葉県以南の太平洋岸に分布し、棲息環境も河口部のカキ殻が多い場所で共通する魚類のサツキハゼが今年5月頃から近木川河口で見つかっており（森・山田、2020）、時を同じくして出現したこの両種の類似性は気になります。大阪湾より南の地域で産まれた幼生や稚仔魚が潮流に乗って今年は大阪湾内に多く入ってきたのか、もしくは分布域を徐々に北上させているのかもしれない。今後も近木川河口で本種とサツキハゼが継続して確認されるようになるのか要注目です。

### 謝辞

大阪湾での本種の記録の有無や近隣の産地や生息状況についてご教示いただいた西宮市貝類館の渡部哲也学芸員にお礼申し上げます。

### 引用文献

- 乾 直人・山川宇宙・丸山智朗・加藤終也・酒井卓・佐藤武宏（2019）相模湾およびその周辺地域の河川から採集された注目すべきカニ類11種。神奈川県立博物館研究報告，48：43-54。  
伊藤寿茂・勝呂尚之（2018）相模湾の汽水域で確

認されたカニ類一特に北限産出となる希少種の記録について. *Cancer*, 27: 17-27.

森 彩華・山田浩二 (2020) 五月に出会ったサツキハゼ. *自然遊学館だより*, 96 : 1.

成瀬 貫 (2012) トゲアシヒライソガニモドキ. *In* 日本ベントス学会 (編)、「干潟の絶滅危惧動物図鑑」、p. 203、東海大学出版会.

野元彰人・淀 真里・木邑聡美・岸野 底・酒野光世・和田恵次 (1999) 紀ノ川河口域で記録されたイワガニ科の6希種. *南紀生物*, 41: 5-9.

縮次美穂・木村昭一 (2019) 三重県初記録のトゲアシヒライソガニモドキ. *南紀生物*, 61(2) : 165-170.

山田浩二 (編) (2019) 近木川干潟再生地 (汽水ワンド) の生きものたち ver. 3. 貝塚市立自然遊学館.

吉崎和美 (2018) 「天草のカニ類写真図鑑」. 一粒書房.

(和田 太一 (NPO 法人南港ウェットランドグループ)・山田 浩二)

## せんごくの杜昆虫調査 楽しい昆虫調査イベントへの試行錯誤

2020年4月に貝塚市名越にある「せんごくの杜」に里山交流センターが完成し、より良い自然観察イベントを実施するチャンスを手に入れることができました。

この場所では (図 1)、2005 年よりルートセンサス法 (決まったルートを周回する調査方法) での調査が行われていますが、それとは別に当センター周辺の昆虫調査を月 1 回実施しました。本調査は次年度以降に実施検討中の一般向け調査イベントを想定した予備調査です。

## せんごくの杜昆虫調査MAP

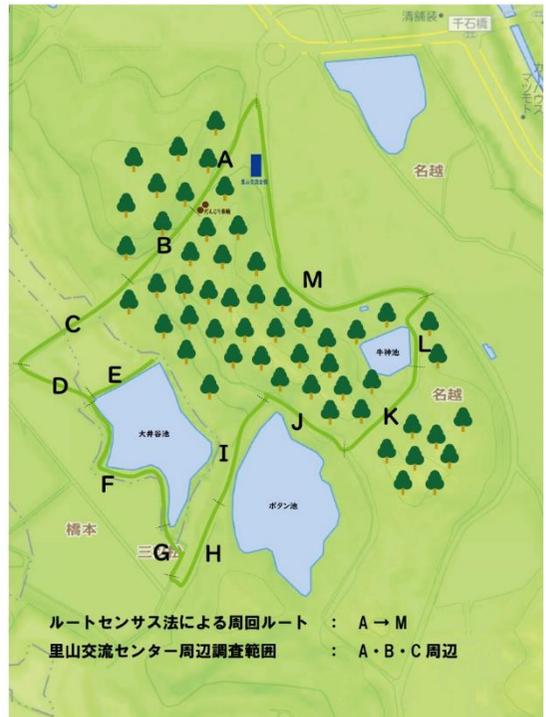


図 1. せんごくの杜調査マップ

結果、6月～11月の6回の調査で157種 (種名まで同定できなかったものを除く) の昆虫を観察できました (表 1)。ルートセンサス法に比べ、一か所にとどまって昆虫探索が可能のため、倒木の下や隙間に隠れているコウチュウ目の昆虫を多く発見でき、さらには狙った昆虫をじっくり探すということも可能でした。

観察・採集した昆虫は当センター内に持ち込んだ図鑑や顕微鏡ですぐに調べることができ、目撃記録についても記憶が鮮明な間に情報交換することができました。また、気温が高い真夏には熱中症予防に役立つことは言うまでもありません。しかし、池まで調査範囲を広げていなかったためにトンボ目昆虫の記録が少なく、まだまだ

工夫が必要です。

採集した昆虫は標本にするだけでなく、  
 写真を撮り、参加者に分かりやすい調査成  
 果カードを作る試みも行いました（図 2）。  
 調査成果を画像を使って共有することで、  
 参加満足度を上げる狙いがあります。



図 2. 成果カード作成例

現在はコロナ禍の中で多くの参加者を  
 募ってのイベントが実施できない状況で  
 すが、この間も私たちはよりよい調査イ  
 ベントができるよう試行錯誤を繰り返して  
 います。

楽しい昆虫イベントをお楽しみに！

次回、せんごくの杜でも確認されたカシ  
 ノナガクイムシ（ナラ枯れの原因昆虫）  
 を紹介します。

表 1. 本調査で確認された昆虫リスト

目	科	種名	6/12	7/10	8/14	9/11	10/9	11/13
シロアリ目	ミゾボシシロアリ科	ヤマトシロアリ						○
トンボ目	イトトンボ科	アオイイトトンボ					○	
	ゼンマ科	ギンゼンマ					○	
	サオエトンボ科	タイワシウチウゼンマ					○	
	トンボ科	ハラビロトンボ		○				
		コシアキトンボ		○				
		シオカラトンボ			○			
		オオシオカラトンボ				○		
		ウスバキトンボ				○		
		ショウジョウトンボ				○		
ハサミムシ目	マルムネササミムシ科	ヒゲジロハサミムシ	○					○
バッタ目	キリギリス科	ホシササキリ	○					
		ササキリ的一种				○		
		ウスイロササキリ				○		○
		オナガササキリ				○		
		キリギリス		○		○		
		クビキリギス						○
ツユムシ科	セスジツユムシ						○	
コオロギ科	エンマコオロギ		○					
ヒバリキリ科	マダラスズ						○	
カネタタキ科	カネタタキ						○	
アリツカオオロギ科	アリツカオオロギの一種				○			
イナゴ科	コバナイナゴ					○	○	
	ツチイナゴ			○	○	○	○	
トンボ目	ヒシバッタの一種				○			
オンバッタ科	アカハネオンバッタ	○					○	
	オンバッタ						○	
	オンバッタの一種			○	○			
バッタ科	ショウリョウバッタ		○		○			
	ショウリョウバッタモドキ				○			
	マダラバッタ				○			
	トノサマバッタ					○		
	イボバッタ					○	○	
カマキリ目	カマキリ科	オオカマキリ	○	○				
トビムシ目	チャハネゴキブリ科	モリチヤハネゴキブリ						○
カメムシ目	セメ科	ニイニゼミ		○	○			
		アブラゼミ			○			
		クマゼミ			○			
		ミンミンゼミ			○			
		ツクツクボウシ				○	○	
ヨコバイ科	クワキヨコバイ	○						
オオヨコバイ科	ツマグロオオヨコバイ				○	○	○	
アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ				○	○	○	
ハゴロモ科	アミガサハゴロモ						○	
カスミカメムシ科	ヒメセダカカスミカメ	○						
	ズアカシダカスミカメ							○
ゲンバユムシ科	クチナガゲンバユムシ							○
サンガメ科	シマサンガメ	○						
メダカナガメムシ科	メダカナガメムシ	○						
オオホシカメムシ科	オオホシカメムシ							○
ヘリカメムシ科	ホシハラビロヘリカメムシ	○	○	○				
	ホオズキカメムシ					○		
	ホソハリカメムシ						○	
ヒメヘリカメムシ科	アカヒメヘリカメムシ	○						
	クモヘリカメムシ			○		○		
マルカメムシ科	マルカメムシ	○	○	○	○	○		
カメムシ科	イチモンジカメムシ			○				
	クサギカメムシ				○	○		
	マルシラホシカメムシ						○	
	ツマジロカメムシ							○
	アオクサカメムシ							○
ハチ目	ベッコウバチ科	ベッコウクモバチ		○				
	ツチバチ科	キオビツチバチ			○			
スズメバチ科	オオスズメバチ	○						
	コガタスズメバチ				○	○		
	セグロアシナガバチ	○	○					○
	キボシアシナガバチ				○			
	キアシナガバチ				○			
ドロバチ科	オオフタオビドロバチ	○						
	ムモンツクリバチ				○			
アリ科	トビイロシウアリ	○						
	オオハリアリ							
	アミアアリ		○					
	テラニシリアゲアリ	○						
	ハヤシクロヤマアリ				○			
	トビイロケアリ				○			○
アナバチ科	クロアナバチ							
アミメカゲロウ目	ヒメカゲロウ科	ヒメカゲロウ科の一種			○			

 **行事レポート**

**海藻おしば作り**

日時：2020年11月1日(日)13：30～15：30

場所：自然遊学館 多目的室

参加者：18人（うちスタッフ7人）

昨年引き続き、館内多目的室にて海藻おしは作り体験を開催しました。

講師は、海藻おしば協会認定指導員の河原美也子先生と前田ゆきみ先生です。

ちなみに「かいそう」というと、「海草」と書く場合と「海藻」と書く場合がありますが、この2つはまったく違う生きものです。「海草」は種子植物で、根・茎・葉の区別ができ、アマモがこの区分に入ります。いっぽう「海藻」は文字どおり「藻(も)」であり、水生の酸素発生型の光合成をおこなう真核生物の総称で、根・茎・葉の区別があいまいです。コンブやワカメ、モズクなどが海藻です。

「海藻」は様々な色をしていて、褐色・桃色・緑色・黄緑色とカラフルですので、絵を表現するのに適しています。さらに天女の羽衣のごとく薄く透けていて、ユラユラひらひらしているので、どの部分を切り取って作品に加えるかは腕の見せ処です！

今年の参加者のみなさんの作品もすぐレベルの高い品々でした(図1)。何を表現しているのか想像してみてください。

カラーで掲載できないのが残念です。

(澤田 智子)

目	科	種名	6/12	7/10	8/14	9/11	10/9	11/13
コウチュウ目	オサムシ科	ニセマルガタゴミムシ	○	○				
		ホシボシゴミムシ		○				
		アトボシアオゴミムシ					○	
		エグリゴミムシ					○	
		コハンミョウ						○
		ハネカクシ科	オオマルスハネカクシ		○			
		タマムシ科	オオウグイスナガタマムシ	○				
		クワガタムシ科	クワガタ				○	○
		コガネムシ科	マメコガネ	○				
			コフキコガネ		○			
	コブマルエンマコガネ		○					
	セマダラコガネ		○					
	コガネムシ	○						
	コアオハナムグリ	○				○		
	シラホシハナムグリ	○				○		
	ナガチャコガネ	○						
	コイチヤコガネ	○						
	ヒラタハナムグリ	○						
カミキリムシ科	アトモンサビカミキリ	○				○		
	ナガゴマカミキリ							
ジウカイボシ科	セボシジウカイ	○						
	ゴミムシダマシ科	アカウヤハネクチキムシ	○					
	ホンドクロオオクキムシ					○		
	エグリゴミムシダマシ					○		
	キマワリ	○	○			○		
	ヒメガシコゴミムシ	○				○		
	モンキゴミムシダマシ		○					
	ヒゲタハムシダマシ					○		
オトシムシ科	ハイロチヨツケリ					○		
	オトシムシ							
テントウムシ科	ハイロチヨツケリ							
テントウムシ科	ヒメデオノコムシ						○	
	ケシキスイ科	キボシコノケシキスイ		○				
	ナボコグチャケシキスイ		○					
	ルイスコノケシキスイ		○					
	ヨツボシケシキスイ		○			○		
	ヨツボシオオキスイ		○					
	コヨツボシケシキスイ		○					
ハムシ科	ナナホシテントウムシ						○	
	ムネアカオオコテントウ	○	○			○		
	ヒメカメノコテントウ	○	○					
	ムーアシロホシテントウ			○				
	ニジョウホシテントウ							
ゾウムシ科	アカクビソハムシ	○						
	クロウリハムシ	○						
	アカガネサルハムシ	○	○	○		○		
	ドウガネサルハムシ	○						
	アザミカミナリハムシ	○						
	ジュンサイハムシ	○						
	ジンガサハムシの一種	○						
	オジロアシナガゾウムシ	○	○			○		
カシワノミゾウムシ		○						
マダラアシゾウムシ		○						
コフキゾウムシ								
ナガキクイムシ科	カシナガキクイムシ					○		
マダラガ科	ハナノミ	○						
	クワバネハナノミ							
セリチヨウ科	ホタルガ					○		
	キマダラセセリ		○					
	コチャバネセセリ					○	○	
アゲハチョウ科	イチモンジセセリ							
	アオスジアゲハ	○			○	○		
	ナガサキアゲハ		○	○	○			
シロチョウ科	ナミアゲハ				○	○		
	カラサアゲハ				○	○		
	モンシロチョウ	○	○					
ジミチヨウ科	キタキチョウ	○						
	ベニジミ	○	○	○				
	ヤマトジミ					○		
	ツバメジミ	○				○		
	ムラサキシジミ				○			
タテハチョウ科	ウラナミジミ					○		
	ヒメウラナミジャノメ	○						
	テングチョウ				○	○		
	ヒカゲチョウ				○	○		
	サトキマダラヒカゲ				○	○		
スズメガ科	クロノマチョウ				○			
	アカタテハ					○		
	ホシホウジャク						○	
トビイロスズメ						幼虫○		
セガ科	ツマキセガ					○		
	ナシケンセン						○	
ハエ目	クダシメ	○						
	チビクダシメ	○						
	ハラキミズアブ	○						
アブ科	アメリカミズアブ	○						
	ウシアブ				○			
ムシヒキアブ科	シオヤアブ	○						

## アンモナイトの断面標本を作ろう！

日時：2020年12月5日（土）10:00～12:00

場所：自然遊学館多目的室

参加者：22人（うちスタッフ5人）



図1. 今回の参加者作品

当館建物のデザインとなっているアンモナイトは和泉層群の地層から産出され、2010年までは毎年秋の恒例行事として蕃原地区で化石採集会が行われていました。人気イベントだったのですが、その後、採掘場が閉鎖され市内での化石採集会はできなくなってしまいました。

当館に展示している貝塚産アンモナイトは図鑑にも使用されるくらい綺麗で、当館の展示物の中でもシンボリックなものです。そのアンモナイトを題材にして、講師の高田雅彦さんが今回のイベントをプロデュースしてくれました。

アンモナイトとはどういった生きものなのかの説明の後、講師自ら北海道留萌で採掘した直径3cmほどのアンモナイト化石（講師による追記あり）が参加者に配られました。そして最初の状態からアンモナイトの内部構造がわかる状態を目指し、研磨してしていく作業が始まりました。粗目の紙やすりから細目、微細目と3段階のものを順に使って、水に濡らしひたすら磨いていきます（図1）。頑張ると1時間ほど作業を続けると光沢とともにきれいな断面が現れました（図2）。ルーペで見ると内部の作りがよりよくわかります。磨かれたアンモナイト断面標本は採集データのラベルの入った袋にいれ、参加者の方それぞれに持ち帰って頂きました。

（澤田 智子）



図1. アンモナイトの断面磨き



図2. アンモナイトの内部構造あらわる！

(山田 浩二)

〔追記〕

**北海道るもい留萌産アンモナイトについて**

行事で作成したアンモナイトの断面標本を観察すると、一番最後の大きな部屋である住房（じゅうぼう）と、隔壁（かくへき）で仕切られた多数の気室（きしつ）からなる気房（きぼう）で構成されています（図2）。住房は軟体部が収まっていたところで、化石では軟体部が失われ海底の泥な

どが入り込んでいます。住房の長さは、種類によりちがいますが、外側の殻の2/3～1巻きを占めています。気室は、化石では化石化作用により方解石などの鉱物結晶が詰まった状態できれいに渦巻き状に並んでいます。生息時の気室は空洞でガスと気室内体液（カメラル液）で満たされ、魚類の浮き袋のように水中で体のバランスをとっていたようです。気房の外周よりには、隔壁をつらぬいて細長く連続する連室細管れんしつさいとよばれる管があります。連室細管は主に有機質からなり、各気室からカメラル液などを排出する機能があったと考えられています（図3）。

今では硬く冷たい石となったアンモナイトですが、約4億2500万年前のデボン紀から世界中の海域で大繁栄し、約6500万年前の白亜紀終了とともに地球上から突然消えた生き物に、わずか2時間ほどですが思いを馳せていただければと、この行事を企画開催しましたがいかがでしたでしょうか。また、アンモナイトによく似た現生生物オウムガイの断面図（図4）も作成したので、内部構造にどのようなちがいがあるかくらべてみましょう。

なお、今回使用したアンモナイトは、北海道留萌郡小平町滝下の小平薬川おびらちようのガケおびらしべかわにあらわれていた蝦夷層群上部層の泥岩層から1985年8月11日に採集されたものです。アンモナイトの時代と年代は、産出化石や地質の研究により中生代白亜紀中期（約9,000万年前）とされています。残念なことにこの産地は、1999年に完成した小平ダムの湖底に沈んでしまいました。

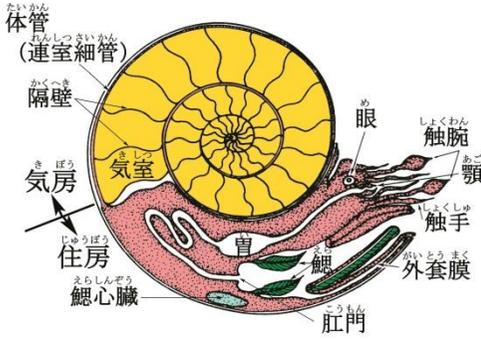


図3. アンモナイトの断面図

アンモナイトの軟体部化石は未発見のため軟体部は想像図

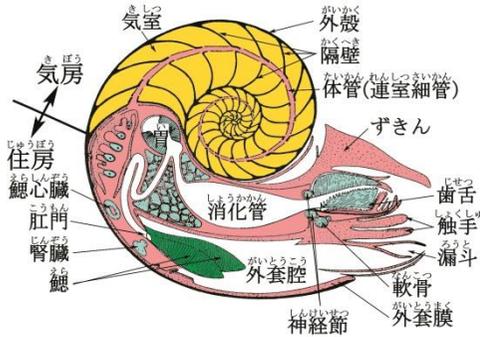


図4. オウムガイの断面図

(高田 雅彦)

(図3)。普通、雌雄で寄生していると祖父が教えてくれました。



図1. アカヒトデ (右腕に瘤)



図2. 寄生部位 (右腕の瘤の穴)

## 泉州生きもの情報

### ヒトデに寄生する貝

僕が初めて見た寄生貝は、和歌山県日高郡みなべ町堺漁港のエビ網に入っていたアカヒトデに寄生していたアカヒトデヤドリナです。2015年2月22日に兄がもってきたものでした。寄生されたアカヒトデの腕は、瘤になっていて小さい穴が開いていました(図1、2)。瘤の中にはアカヒトデヤドリナが2匹入っていました



図3. アカヒトデヤドリナ

(左個体：殻高約4mm、右個体：殻高約2mm)

僕が初めて採集した寄生貝は、2016年7月3日に大阪府泉南郡岬町豊国崎で採集したヤツデヒトデヤドリニナです。ヤツデヒトデの口の近くに寄生していました(図4、5)。寄生されたヒトデは、寄生貝に体の中に入り込まれたり、住みつかれたりして痛くないのかなと思いました。

採集会をこのとき主催していたきしわだ自然資料館の柏尾学芸員が近くにいたのでヤツデヒトデヤドリニナのことを聞いたら、和歌山市の城ヶ崎で採取したことがあると教えてくれました。家に帰って写真を撮った後、そのままにしていたらゴミと間違えられて捨てられてしまいました。この採集会に講師で来ていた大古場さんもその日にヤツデヒトデヤドリニナを採集していて調べた結果、大阪湾大阪府側での発見は初記録だったそうです。これからは、標本を大切に、なくさないようにしたいと思いました。



図4. ヤツデヒトデとヤツデヒトデヤドリニナ



図5. ヤツデヒトデヤドリニナ  
(殻高 約5mm)

また、この日僕は、肉の残ったキイロダカラの死殻も採集しました。祖父に聞いたら肉の残ったキイロダカラも大阪湾では珍しいと教えてもらいました

(泉佐野市立日新小学校6年 児嶋 恭平)

## クリタケ

以前は食用とされていたのに、実は毒キノコだった代表的な例は、スギの切り株などに生えるスギヒラタケ(ホウライタケ科)でしょう。真っ白で、森の中でよく目立つキノコです。

今回、紹介するクリタケ(モエギタケ科)も、そういった例の一つです。2020年11月26日に蕎原の左近谷林道脇の枯れ木の根元に生えていました(図1)。束生するのが特徴です。2014年11月27日にも蕎原の本谷でも、そうではないかという株を見つけていたのですが、あまりにも幼菌だったので、記録として採用しませんでした。



図1. クリタケ

傘の表面は茶褐色で、裏面の色は胞子の成熟とともに黄白色から紫褐色に変わります。傘の裏のヒダは密です（図2）。



図2. クリタケの傘の裏面  
(傘の裏面は紫褐色になっていました)

従来の図鑑では、食用とされ、おいしいキノコとして扱われてきましたが、現在は毒キノコとされています。例えば、『北陸のキノコ図鑑』では、「優秀な食菌とされてきたが、近年有毒成分が抽出され、外国では有毒とされており、消化器系障害の可能性あり」と書かれています。また、『日本の毒きのこ』では、含有毒成分として、ネマトリンやネマトロンといった農薬に使われる物質があげられています。

見た目は、とても美味しそうに見えます。原木栽培も行われ、栽培キットも販売されるなどしているのですが、猛毒ということはないのでしょうか。でも、食べすぎには十分ご注意ください。

#### 引用・参考文献

『フィールドベスト図鑑 日本の毒きのこ（2刷）』  
(2004)、学習研究社、280pp.

『北陸のキノコ図鑑』(2005)、橋本確文堂、394pp.

『山溪カラー名鑑 日本のきのこ（22刷）』(2002)、  
山と溪谷社、622pp.

(岩崎 拓)

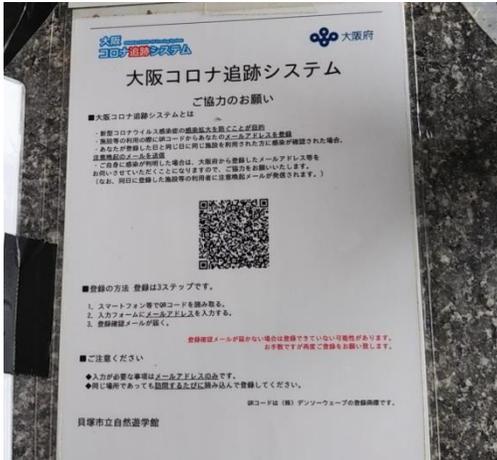
#### 館長コーナー

#### 自然遊学館からのお知らせ

緊急事態宣言が1月7日1都3県に、13日には大阪府を含む2府5県、合わせて全国で11都府県に出されました。当館では以前にもまして新型コロナウイルス感染予防に向け取り組んでまいります。

前号でも館内感染予防協力をお願いとしてお知らせいたしましたことを、今回もう一度紹介させていただきます。

大阪コロナ追跡システム登録並びに厚生労働省新型コロナウイルス接触確認アプリ（通称 cocoa）インストールのお願い。



**入り口の大阪コロナ追跡システム登録呼びかけ**

他にも3密（密閉・密集・密接）防止対策として、密閉を避けるために換気優先対応を行いました。日常とは異なり玄関扉や非常扉など非常時以外は閉めている窓や扉を常時開放しました。そのため館内では夏の暑さ・冬の寒さが身に染みたことをお詫びいたします。

また、館内を一方通行にし、床の→に沿って見学をお願いし、密集や密接を避けるようにしました。

他にもいくつかのお願いをしました。

- ①展示物には触れずに見学。
- ②見学時間は20分程度。
- ③5人以上の団体見学の受け入れ中止。
- ④大きな声を出さずに見学。

4月からの行事については開催行事の人数制限（従来の半分以下）、場合によっては開催の中止をやむなく行いました。

**令和2年度行事報告**

実施予定行事	実施日
生きもの切り絵展	6月13日(土)～7月11日(土)
海辺の植物観察会	中止
渚の生きもの	中止
二色の浜クリーンと稚魚放流	中止
アマモ場の生きもの調べ	中止
夏休み 自由研究相談	8月8日(土)～8月16日(日)
夏期特別展『上久保文貴植物標本コレクションⅡ』	7月25日(土)～8月30日(日)
自然生態園のバタ調べ	9月12日(土)
カニ釣り in 近木川河口	9月13日(日)
秋の自然を楽しもう IN 自然遊学館	中止
近木川のアユ調べ	9月19日(土)
親子海釣り体験	中止
五藤武史写真展『クローズアップ昆虫』	11月1日(日)～23日(月・祝)
海藻おしば製作	11月1日(日)
アンモナイトの断面標本を作ろう	12月5日(土)
春の七草摘み	中止
打ち上げ貝拾い	1月23日(土)
ノリすき体験(西鳥取漁港)	中止
バードウォッチング	2月20日(土) 予定
2020年の出来事展	3月1日(月)～4月4日(日) 予定

**調査速報**

**貝塚市二色の浜と  
近木川周辺の鳥調査 19**

令和2年度行事については、悪天候による中止や開催場所が確保できなかったことによる中止などもありましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、開催を中止したものが多くありました。

※上の表の2月・3月行事は予定として掲載しました

他に当館の出前講座数、団体見学数、入館者数を令和元年と令和2年とで比較しました。大きく減少したことが分かります。

- ・ 出前講座数はほぼ半分に減少。
- ・ 団体見学の団体数はほぼ1割に減少。
- ・ 入館者数は約6割に減少。

(令和元年・2年の年中統計の比較より)

今しばらくは『うがい』『手洗い』『マスク着用』という基本的な自己防衛手段を励行しながら感染拡大防止に努め、緊急事態宣言解除後には感染者数が大きく減少していることを期待します。そして、暖かい春の訪れを待ちたいと思います。

今後とも来館される皆様のご協力のもと、感染拡大防止には十分気を付け開館していきたくと考えています。

皆様のご理解とご協力をお願いします。

(高橋 寛幸)

10月中旬からカモの群れが近木川河口にやってきました。

最初は、カルガモの群れが多く見られていたのですが、1ヶ月後には、ヒドリガモが多くなり、12月中旬には、ホシハジロが100羽以上群れで来ています。



**ヒドリガモ**  
(二色の浜 2020年11月20日)

二色の浜公園周辺において2020年10月～12月に観察された鳥類					
目	科	種	10月 16日	11月 20日	12月 18日
カモ目	カモ科	オカヨシガモ			○
		ヒドリガモ	○	○	○
		マガモ			○
		カルガモ		○	○
		オナガガモ		○	○
		ホシハジロ			○
		スズガモ	○	○	○
カイツブリ目	カイツブリ科	カンムリカイツブリ	○	○	○
ハト目	ハト科	キジハト	○	○	○
		ドバト	○	○	○
カツオドリ目	ウ科	カワウ	○	○	○
ペリカン目	サギ科	アオサギ	○	○	
		ダイサギ	○	○	
		コサギ	○		○
チドリ目	チドリ科	シロチドリ			○
	シギ科	ハマシギ			○
	カモメ科	ユリカモメ		○	○
		ウミネコ	○	○	○
		セグロカモメ		○	
タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	○		
	タカ科	トビ	○	○	
スズメ目	モズ科	モズ	○	○	○
	カラス科	ハシボソガラス	○	○	○
	ヒバリ科	ヒバリ		○	○
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○
	メジロ科	メジロ		○	○
	ムクドリ科	ムクドリ	○		○
	ヒタキ科	ジョウビタキ			○
		イソヒヨドリ		○	
	スズメ科	スズメ	○	○	○
	セキレイ科	ハクセキレイ	○	○	○
	アトリ科	カワラヒワ	○	○	
種数			19	22	24

冬になるとモズを確認することが多くなります。モズは大阪府の鳥で、マスコットキャラクター、もずやんのモチーフになった鳥です。



**モズ**  
(近木川河口 2020年12月4日)

近木川河口周辺において2020年10月～12月に観察された鳥類						
目	科	種	10月	11月	12月	
			23日	13日	4日	
カモ目	カモ科	ヒドリガモ		○	○	
		マガモ		○	○	
		カルガモ	○	○	○	
		オナガガモ		○	○	
		コガモ	○	○	○	
		ホシハジロ			○	
		スズガモ		○	○	
ハト目	ハト科	キジハト	○	○	○	
		ドバト	○	○	○	
カツオドリ目	ウ科	カワウ	○	○	○	
ペリカン目	サギ科	アオサギ	○	○	○	
		ダイサギ	○	○	○	
		コサギ	○	○	○	
		オオバン	○	○	○	
ツル目	クイナ科	オオバン	○	○	○	
		チドリ目	シギ科	イソシギ	○	○
カモメ科	ユリカモメ				○	
	ウミネコ	○		○	○	
	セグロカモメ				○	
タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	○	○		
		タカ科	トビ	○	○	○
スズメ目	モズ科	モズ	○	○	○	
		カラス科	ハシボンガラス	○	○	○
		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○
		メジロ科	メジロ	○	○	○
		ムクドリ科	ムクドリ	○	○	
		ヒタキ科	ツグミ		○	
			ジョウビタキ		○	○
			イソヒヨドリ	○		
		スズメ科	スズメ	○	○	○
		セキレイ科	ハクセキレイ	○	○	○
			セグロセキレイ		○	○
アトリ科	カワラヒワ		○	○		
種数			21	27	28	

(鈴子 勝也)

## 寄贈標本

### <鳥類>

- ◆常道武士さんより  
シロハラ 死体1点  
貝塚市澤 2020年11月1日採集
- ◆西田有理さんより  
メジロ 死体1点  
貝塚市二色南町 2020年11月30日採集

### <魚類>

- ◆シニア自然大学水生生物科より  
ドンコ 生体1点  
貝塚市近木川下流(新井井堰)  
2020年10月16日採集
- ◆丸山幸代さんより  
コノシロ 1点  
貝塚市二色の浜打上 2020年10月29日



**コノシロ**

- カタクチイワシ 1点  
貝塚市二色の浜打上 2020年12月2日
- ◆森樹雄さんより  
カマツカ 2点  
ギギ 1点  
ドンコ 1点  
京都府円山川 2020年11月25日採集

### <類線形動物>

- ◆シニア自然大学水生生物科より

ハリガネムシの一種 1点  
貝塚市近木川下流（新井井堰）  
2020年10月16日採集

### <軟体動物>

- ◆石崎翔大さんより  
イシダタミガイ 3点  
田尻町マーブルビーチ  
2020年10月3日採集
- ◆田中広樹さんより  
ルリガイ 殻3点  
福井県高浜町打上 2020年10月26日
- ◆丸山幸代さんより  
イソチドリ 殻1点  
アサテンガイ 殻2点ほか  
貝塚市二色の浜打上 2020年12月2日
- ◆常道武士さんより  
ギュリキマイマイ 殻1点  
コベソマイマイ 殻1点  
ナマイマイ 殻1点  
貝塚市澤 2020年12月11日採集

### <節足動物>

- ◆河田航路さんより  
ヒメヌマエビ 4点  
阪南市男里川下流 2019年6月2日採集  
ヒメヌマエビ 2点  
トゲナシヌマエビ 6点  
ヤマトヌマエビ 3点  
ミズレヌマエビ 7点  
ヒラテテナガエビ 1点  
テナガエビ 1点  
岬町淡輪番川下流 2020年7月19日採集



ヒメヌマエビ  
(河田航路さん撮影)

- ◆石崎翔大さんより  
ヒライソガニ 3点  
イソガニ 3点  
ホンヤドカリ 3点  
田尻町マーブルビーチ  
2020年10月3日採集
- ◆シニア自然大学水生生物科より  
テナガエビ 1点  
貝塚市近木川下流（新井井堰）  
2020年10月16日採集
- ◆常道武士さんより  
スジエビ 生体1点  
テナガエビ 生体1点  
貝塚市橋本 2020年12月22日採集

### <昆虫>

- ◆常道武士さんより  
セスジヒトリ 幼虫1点  
貝塚市澤 2020年10月28日採集  
ナカグロクチバ 幼虫1点  
貝塚市澤 2020年11月1日採集
- ◆湯浅章葉さんより  
マツヘリカメムシ 成虫1点  
貝塚市澤 2020年10月30日採集



マツヘリカメムシ

マツヘリカメムシ 成虫 1点  
貝塚市澤 2020年11月2日採集

- ◆山田壮真さんより  
キゴシハナアブ 成虫 1点  
泉南市新家 2020年12月7日採集

#### <展示用>

- ◆伊藤謙さんより  
エミュー 卵 1個

#### <寄贈写真>

- ◆秋武仁志さんより  
タヒバリ 1枚  
貝塚市窪田 2020年11月7日撮影  
タイリクアカネ 1枚  
熊取町和田山 2020年11月15日撮影
- ◆覚野良子さんより  
キッコウハグマ 1点  
リンドウ 1点  
貝塚市蕎原 2020年11月14日撮影
- ◆丸山幸代さんより  
ヨシガモ 4点  
貝塚市近木川河口  
2020年11月28日撮影

#### スタッフ日誌

**10月10日**、雨の降る最中、事務所の天井からポタッ、ポタッと水滴が落ちてきました。雨漏りです。館の中はこれまで所々で雨漏りは生じてきましたが、事務所での発生は初めてのケースでした。危うくパソコンが濡れてしまうところでしたが、応急処置でしのぎました。本格的な修繕の前に強い雨風が来ないように願っています。(一同)

**10月22日**、浜手公民館のシルバーライフ講座の方々、約30人に、自然生態園の説明をしました(館内への団体見学はまだ5人までの制限があります)。コロナ禍で大勢の団体見学を受け入れなくなってから、久々の見学でした。学芸員実習生の表原陸さんに、トンボの池で採集の実演をしてもらい、クロスジギンヤンマのヤゴなどを見ることができました。(岩)

**11月24日**、地域の自然をテーマにした30分番組のナレーション収録をテレビ岸和田で行いました。10月28日に二色の浜の海中の様子をスキューバダイビングで撮影した動画を見ながらマイクにしゃべります。昨年も同様にナレーションの吹き込み体験をしたのですが、勝手の違う慣れない仕事です。(山)

**12月2日**、貝塚市環境衛生課と共催で「海洋プラスチックごみ問題啓発パネル展」を多目的室で12月25日まで開催しました。貝塚市は令和元年に「かいづかプラスチックごみゼロ宣言」を行い、海洋プラスチックごみ対策に取り組んでいます。パネルだけ

でなく、二色の浜に多く打ち上がるプラスチック製品やペットボトル、またレジンペレットなどのマイクロプラスチックを拾ってきて並べました。(一同)

## お知らせ

### 特別展「2020年の自然遊学館の出来事」

#### 特別展「2020年の自然遊学館の出来事」

～ 2020年の貝塚市の自然の記録と遊学館の行事を振り返ります ～



場所：貝塚市立自然遊学館多目的室  
期間：2020年3月1日(月)～4月4日(日)

貝塚市二色3丁目26-1 水鉄バス「市民の森」バス停下車徒歩1分  
Tel. 072-431-8457 火曜日は休館日です。ご注意ください。

場所：自然遊学館多目的室  
期間：2021年3月1日(月)  
～4月4日(日)、火曜日休館

2020年の貝塚市の自然の記録や、自然遊学館の行事や出来事を標本と写真で紹介します。

自然遊学館だより 2021 冬号 (No. 98)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

ホームページ

<https://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/sizenyugakukan>

発行日 2021. 2. 10

この小冊子は店内印刷で作成しています。